



秋まつり
開催!



11月2日(土)・3日(日)

★ところ：三春交流館「まほら」小ホール

三春駒の伝説

— 三春駒 PAINTING コンテスト —



今年、三春町のマスコットキャラクター「こまりん」が誕生してから10年目の記念の年です。

10周年を記念し、こまりんのモチーフとなった三春駒の魅力をご皆さんに知っていただくため、三春駒の伝説にちなみ100体の三春駒を制作します。

ぜひ、この機会に皆さんの想いを込めた三春駒をつくってみませんか。

参加費 500円

秋まつり当日、三春駒を絵付けいただき、コンテストに応募いただけます。

表彰等

令和7年1月19日(日) 三春だるま市会場

三春だるま市会場での表彰と絵付けした三春駒のお返しとなりますので、お受け取りにお越しく下さい。

三春駒の伝説

延暦十四年(795) 坂上田村麻呂が、大多鬼根山(大滝根山)の石の洞窟に住む大多鬼丸という賊の征伐に京都を出発した時、京都清水寺の開祖と言われる僧延鎮が、五体の仏像を刻んだ残りの材で鞍馬百足(ひき)を刻み、田村麻呂將軍に贈った(つまり仏像を造った残りの木で700匹の木の馬をつくりお守りとして贈った)ということ。將軍はこれを鑑櫃(ようらいびつ)におさめて征夷の途にのほり、やがて戦いは開始されたが、官兵は京都よりの遠路に疲れていたので苦戦であった。その時どこからか、鞍馬百足が官兵の陣営に走り込んで来たので兵達はその馬に乗って大多鬼根山へ攻め登り、ようやく大多鬼丸を滅ぼすことが出来た。ところがその後、鞍馬百足の行方がわからなくなりました。

翌日、一足の木馬が三春近くの高柴村(デコ屋敷)で汗にまみれているのを里の人の杵阿弥という者が拾い、これは延鎮の作の百足の木馬の一つであると聞き九十九足を自分で作り補っていた。三年後には、この拾った一足も行方がわからなくなったので、九十九足を杵阿弥の子孫はこの駒を操作して里の子供に与えたところ、これで遊ぶ子供は健やかに育ち、子の無い者も三粒の大豆を飼葉として木馬に与えると子宝に恵まれるといわれ、また、疱瘡(はっそう)、麻疹(はしか)も軽くなるという、誰とどうとなく「高柴子育て木馬」と名付けられた。

この伝説の原文は今もデコ屋敷内に高柴村製木馬伝来の記として木版に残されています。三春藩はもともと野生の馬が多く生息していて、藩を豊かにするための産業として馬を改良し多くの良馬を生み出しました。その良馬は三春馬(三春駒)と呼ばれ全国へ広がりました。そのため人々は馬育成の祈りのため、神社や馬頭観音に絵馬や高柴村で作られた木馬を刻んで奉納するようになり、また子供の玩具に用いたりしました。それが次第に坂上田村麻呂の伝説に結びつき高柴子育て木馬の由来になったのではないかとされています。

主催
問い合わせ

三春町・三春駒 PAINTING コンテスト事務局 協力：高柴デコ屋敷 (大黒屋)

〒963-7751 福島県田村郡三春町字北町10

三春駒 PAINTINGコンテスト事務局 (三春まちづくり公社 観光部内) ☎0247-62-3690



詳しくは
ひまわり



こまりん10th特設サイト